

## 特定非営利活動法人日本火山学会 2020 年度通常総会 議事録

開催日時および開催場所

2018 年 5 月 26 日、14 時 00 分～14 時 15 分

茨城県つくば市 産業技術総合研究所つくば中央第七事業所 532 号室

初めに出席数及び委任状提出数を確認した。定期総会開催時の維持会員数は 286 名である。うち会場出席者 3 名（会長含む）、委任状・議決票提出者 167 名で、合計 170 名（会長含む）となり定足数（96 名）を超えたため本総会は成立していることを確認した。これを受けて、会長が開会を宣言した。

### 議題 1 2019 年度決算案

財務委員から提示された 2017 年度決算案（別添資料 1）および監査結果（別添資料 2）は、賛成多数により提案通り承認された。（賛成 164 票、委任状 5 票、反対 0 票）

### 議題 2 2020 年度予算案の承認

財務委員会より 2019 年度予算案が別添資料 3 の通り提案され、賛成多数で提案通り承認された。（賛成 164 票、委任状 5 票、反対 0 票）

### 議題 3 2020 年度役員選挙結果

本会の役員（理事）の任期が 2020 年 6 月 30 日で満了することに伴い、2020 年度役員選挙が実施された。選挙管理委員会より、2020 年度役員選挙結果が別添資料 4 の通り提示され、賛成多数で提案通り承認された。（賛成 165 票、委任状 4 票、反対 0 票）

### 議題 4 選挙管理委員会の任務終了と解散

役員選挙結果（議題 3）の承認を受けて、選挙管理委員会の任務が終了したことを確認し、同委員会を解散することが庶務委員会から提案され、賛成多数で提案通り承認された。（賛成 164 票、委任状 5 票、反対 0 票）

### 議題 5 2020 年度役員（監事）の選任

本会の役員（監事）の任期が 2020 年 6 月 30 日で満了することに伴い、風早康平・武尾実両会員を 2020 年度の役員（監事）として提案し、賛成多数で提案通り承認された。（賛成 163 票、反対 1 票、委任状 5 票）

なお、連絡事項として、庶務委員会から会員数動向について、大会委員会から 2020 年秋季大会学術将来検討小委員会から夢ロードマップの作製について、各賞選考委員会から 2020 年度日本火山学会各賞受賞者の内定について、それぞれ別添資料の通り報告があった。

総会の最後に、議事録署名人として千葉達朗・西村太志両会員を選出した。

以上、予定した議題をすべて審議・採決を行ったことを確認し、会長が閉会を宣言した。

以上、この議事録が正確であることを証します。2020年5月26日

日本火山学会長 篠原宏志

議事録署名人 千葉達朗                      西村太志

## 日本火山学会2019年度決算報告

2020年4月28日

財務委員会

## 【1. 2019年度決算の概要】（詳細は別紙の表を参照）

## ○名目および実質赤字76万円.

実質赤字額は近年の変動の範囲内. cf. 2017: 126万(名目206万), 2018: 59万(名目209万)

# 名目と実質の差=ACV(アジア火山学コンソーシアム)基金からの出費. 2019はACV基金出費なし.

## ○経常収入: 1297万円 (前年+25万)

例年並み. 若干の増収.

- ・前年比: 会費収入: -12万, 火山別刷販売: +55万, 文科省助成金: -28万, など
- ・「その他事業」収入 (広告掲載): 今期も無し

## ○経常支出: 1373万円 (前年-108万)

想定より支出少なかった. 特に当初予算に比べ支出は大幅縮小.

- ・内訳: 事業費656万 (前年-87万), 管理費717万円 (前年-21万)
- ・前年比: 秋季大会: -39万, 会誌: +117万, 普及啓発: -116万, 公開講座: -28万, 棚卸: -25万, など
- ・予算との差が大きかった要因:
  - 名簿の印刷・発送なし (62万), 理事選挙は無投票に (27万),
  - 大会参加費クレジット決済なし (20万), 火山カラーチャージ負担なし (66万),
  - EPS臨時出資なし (20万).
- それ以外の主な未使用予算: ACV31万、将来計画30万、理事会旅費40万、国際賞40万など
- ・秋季大会開催(予稿集込み138万)は, 大会参加費(153万)+予稿集販売(24万)で賄えている.

## ○次期繰越収支差額:

992万円 (うちACV基金残額31万円), 実質繰越961万円 (前年-50万)

## 【2. 赤字対策】

961万 (今年度実質繰越) ÷ ca.100万 (例年実質赤字) = ca. 10年 (財政赤字に転落)

→ 財政改善の長期的検討が必要

## ○収入増加策

- ・会員増加 and/or 会費値上げ (e.g., 学術8,000円→10,000円: 120万円収入増)
- ・寄付依頼
- ・収益事業 (e.g., 各種イベント参加料 [防災シンポなど], グッズ販売)

## ○支出減少策

- ・火山発行形態, 名簿発行形態(→2019年は印刷・配布せず)
- ・各委員会での支出見直し

## ○国際学会開催準備預金 (600万円) の扱い

以上

## 2019年度決算

勘定科目名称	2019予算	2019実績	実績差異	備考
《経常増減の部》				
【経常収入】				
【会費収入】				
維持会員会費	2,775,000	2,760,000	-15,000	
学会会員会費	5,188,000	5,084,000	-104,000	
一般会員会費	934,000	927,000	-7,000	
【会費収入】合計	8,897,000	8,771,000	-126,000	
【寄付金収入】				
【寄付金収入】合計	0	0	0	
【補助金等収入】				
文部科学省助成金収入	800,000	690,857	-109,143	
【補助金等収入】合計	800,000	690,857	-109,143	
【事業収入】				
火山定期購読料	600,000	884,500	284,500	
火山別刷販売金	150,000	700,752	550,752	
予稿集販売金	270,000	241,700	-28,300	
書籍等販売金	30,000	25,536	-4,464	
大会参加費等	1,450,000	1,530,000	80,000	
【事業収入】合計	2,500,000	3,382,488	882,488	
【その他収入】				
受取 利息	1,000	277	-723	
雑 収 入	50,000	124,122	74,122	著作権料など
【その他収入】合計	51,000	124,399	73,399	
【経常収入】合計	12,248,000	12,968,744	720,744	
【経常支出】				
【事業費】				
火山学に関する定期大会等の開催費				
予稿集印刷費	350,000	309,744	-40,256	
予稿集発送費	20,000	6,840	-13,160	
臨時雇賃金	300,000	229,000	-71,000	
会場使用料	900,000	578,270	-321,730	
旅費謝金	360,000	99,590	-260,410	
通信運搬費	70,000	41,261	-28,739	
機材借料	100,000	0	-100,000	
雑費	1,392,400	119,010	-1,273,390	消耗品等62, クレジット決済20, 余裕50, など
火山学に関する定期大会等の開催費 合計	3,492,400	1,383,715	-2,108,685	
会誌機関紙研究報告書等発行費				
火山印刷費	4,710,000	2,389,332	-2,320,668	名簿50, カラー負担66, 余裕50, など
火山発送費	500,000	418,716	-81,284	
別刷印刷費	350,000	94,617	-255,383	
別刷発送費	40,000	9,436	-30,564	
通信運搬費	50,000	0	-50,000	
火山雑費	460,000	236,422	-223,578	余裕10
会誌機関紙研究報告書等発行費 合計	6,110,000	3,148,523	-2,961,477	
公開講座講演会等開催費				
臨時雇賃金	40,000	39,000	-1,000	
旅費謝金	390,000	253,831	-136,169	
通信運搬費	20,000	7,377	-12,623	
印刷費	200,000	183,940	-16,060	
雑費	250,000	217,116	-32,884	
公開講座講演会等開催費 合計	900,000	701,264	-198,736	
火山学の普及啓発に関する事業費				
臨時雇賃金	8,000	0	-8,000	
旅費謝金	1,190,000	190,476	-999,524	国際30, 将来30, 余裕20, など
通信運搬費	10,000	0	-10,000	
印刷費	330,000	0	-330,000	
雑費	423,835	223,498	-200,337	余裕19
火山学の普及啓発に関する事業費 合計	1,961,835	413,974	-1,547,861	
火山学に関する研究奨励表彰費				
その他印刷費	50,000	31,700	-18,300	
奨励費	400,000	0	-400,000	国際奨励賞なし
雑費	50,000	43,576	-6,424	
火山学に関する研究奨励表彰費 合計	500,000	75,276	-424,724	
助成金支出				
助成金支出	1,000,000	600,000	-400,000	EPS, 地学五輪, サマスク, EPSの臨時出資増は無し
助成金支出 合計	1,000,000	600,000	-400,000	

## 2019年度決算

勘定科目名称	2019予算	2019実績	実績差異	備考
<b>【期首・期末棚卸】</b>				
売上原価	0	236,852	236,852	期首・期末棚卸高の差, 在庫整理
<b>【期首・期末棚卸】合計</b>	0	236,852	236,852	
事業費 計	13,964,235	6,559,604	-7,404,631	
<b>【管理費】</b>				
給料手当	3,900,000	3,700,021	-199,979	
法定福利費	630,000	626,089	-3,911	
福利厚生費	10,000	7,030	-2,970	
旅費交通費	816,000	258,355	-557,645	理事会旅費40, 余裕20, など
通信運搬費	570,000	322,188	-247,812	名簿作成・理事選25
消耗品費	212,000	204,566	-7,434	
光熱水料費	100,000	85,481	-14,519	
賃借料	323,408	322,744	-664	
租税公課	150,000	134,630	-15,370	
支払手数料	750,000	748,495	-1,505	会計事務所
減価償却費	169,553	169,553	0	
徴収不能額	0	247,000	247,000	
保険料	6,000	5,678	-322	
雑費	950,000	334,728	-615,272	HP改修20, 余裕20, 名簿作成・理事選9
管理費 計	8,586,961	7,166,558	-1,420,403	
<b>【経常支出】合計</b>	22,551,196	13,726,162	-8,825,034	
当期経常増減額	-10,303,196	-757,418	9,545,778	
<b>《その他資金の部》</b>				
<b>【その他資金収入の部】</b>				
<b>【その他資金収入の部】合計</b>	0	0	0	
<b>【その他資金支出の部】</b>				
<b>【その他資金支出の部】合計</b>	0	0	0	
<b>《正味財産増減の部》</b>				
当期正味財産増減額	-10,303,196	-757,418	9,545,778	
前期繰越正味財産額	33,549,650	33,549,650	0	
次期繰越正味財産額	23,246,454	32,792,232	9,545,778	
固定資産額		21,483,341		
期末棚卸高		1,364,078		
前払費用		19,873		
前期繰越収支差額		10,420,275		
次期繰越収支差額		9,924,940	-495,335	内ACV(IAVCEI寄付)残金31万、残り961万

## 監 査 報 告

特定非営利活動法人日本火山学会定款第6章第49条により、  
2019年度の事業・会計収支状況、預金・為替等の帳簿を監査した結  
果、適正に執行されていることを認めます。

2020年 4月 27日

特定非営利活動法人日本火山学会 会計監事

宇平 幸一



中田 節也



## 日本火山学会2020年度予算案について

2020年4月30日  
財務委員会

## 【1. 2020年度予算案の概要】（詳細は別紙の表を参照）

## ○経常収入：1447万：前年度予算+222万円

今期は秋季大会の現地討論会参加費（120万）・交流会参加費（140万）を  
学会予算に組み込んだ（後述）。それ以外はほぼ例年並み。  
学会グッズ（ノート）販売予定 → 事業収入（普及啓発目的のため）

## ○経常支出：2342万：前年度予算+87万円

今期は秋季大会の現地討論会費用（120万）・交流会費用（140万）を  
学会予算に組み込んだ（後述）。それ以外はほぼ例年並み。  
消費税増税（8%→10%）を一部考慮。

## ○収支差額：計算上は 894万円赤字

実際には余裕・節約等のためここまでの赤字にはならない想定だが、  
引き続き節約へのご協力をお願いしたい。

[前年度予算の例]：計算上は 1030万赤字 → 実際の赤字 76万

ただし2019年度は、名簿の印刷・配布、理事選挙の投票、など特に積んでいた予算が  
執行不要になったことも大きい（2019年度決算報告を参照）

## 【2. 新型コロナウイルス感染拡大の影響】

- ・今期は新型コロナウイルス感染拡大の影響で、様々な行事が予定通り行えない可能性。  
ただし予算積算は、基本的に例年通りの実施を想定。  
例外は、すでに現地開催中止が決まったJpGU（会場費25万円は計上しない）。
- ・秋季大会は、実施・中止の両面で検討中。  
中止の場合にキャンセル料を学会予算から支出可能とするため、  
現地討論会・交流会の会計を学会予算に組み込んだ（去年までは独立会計だった）。
- ・中止or延期の可能性のあるその他の行事：  
サマースクール、地学オリンピック、ACV、公開講座講演会、防災シンポ。  
（いずれも学会予算内でキャンセル料支出可能）
- ・今後、予定している行事を中止or延期する場合は、財務委員にもご一報ください。

以上

## 2020年度予算(案)

ver.200512a

勘定科目名称	2019実績	2020予算	予算額差異	備考
《経常増減の部》				
【経常収入】				
【会費収入】				
維持会員会費	2,760,000	2,750,000	-10,000	2020/4/9時点での会員数
学会会員会費	5,084,000	4,656,000	-428,000	2020/4/9時点での会員数
一般会員会費	927,000	913,000	-14,000	2020/4/9時点での会員数
【会費収入】合計	8,771,000	8,319,000	-452,000	
【寄付金収入】				
【寄付金収入】合計	0	0	0	
【補助金等収入】				
文部科学省助成金収入	690,857	700,000	9,143	
【補助金等収入】合計	690,857	700,000	9,143	
【事業収入】				
火山定期購読料	884,500	800,000	-84,500	PDF無料化で減少傾向
火山別刷販売金	700,752	150,000	-550,752	例年実績(2019は特集号で多かった)
予稿集販売金	241,700	250,000	8,300	例年実績
書籍等販売金	25,536	75,000	49,464	例年実績+ノート販売
大会参加費等	1,530,000	4,130,000	2,600,000	去年度実績+現地討論会120+交流会140
【事業収入】合計	3,382,488	5,405,000	2,022,512	
【その他収入】				
受取 利息	277	300	23	
雑 収 入	124,122	50,000	-74,122	著作権料など, 例年実績
【その他収入】合計	124,399	50,300	-74,099	
【経常収入】合計	12,968,744	14,474,300	1,505,556	うち現地討論・交流260
【経常支出】				
【事業費】				
火山学に関する定期大会等の開催費				
予稿集印刷費	309,744	350,000	40,256	
予稿集発送費	6,840	20,000	13,160	
臨時雇賃金	229,000	300,000	71,000	
会場使用料・委託費	578,270	650,000	71,730	秋季65, (連合25は計上せず)
旅費謝金	99,590	360,000	260,410	
通信運搬費	41,261	70,000	28,739	
機材借料	0	100,000	100,000	
現地討論会・交流会費	0	2,800,000	2,800,000	現地討論3万×20×2, 交流0.7万×200, 余裕20
雑費	119,010	1,190,000	1,070,990	消耗品等62, クレジット決済20, 庶務7, 余裕30
火山学に関する定期大会等の開催費 合計	1,383,715	5,840,000	4,456,285	現地討論・交流260, 余裕50
会誌機関紙研究報告書等発行費				
火山印刷費	2,389,332	3,760,000	1,370,668	火山260, カラー負担66, 余裕50
火山発送費	418,716	500,000	81,284	
別刷印刷費	94,617	350,000	255,383	
別刷発送費	9,436	40,000	30,564	
通信運搬費	0	50,000	50,000	
火山雑費	236,422	460,000	223,578	J-STAGE関係: 火山21予稿集15, 余裕10
会誌機関紙研究報告書等発行費 合計	3,148,523	5,160,000	2,011,477	余裕60
公開講座講演会等開催費				
臨時雇賃金	39,000	50,000	11,000	学生アルバイト@8000*5
旅費謝金	253,831	300,000	46,169	
通信運搬費	7,377	50,000	42,623	
印刷費	183,940	200,000	16,060	
雑費	217,116	300,000	82,884	余裕10
公開講座講演会等開催費 合計	701,264	900,000	198,736	余裕10
火山学の普及啓発に関する事業費				
臨時雇賃金	0	8,000	8,000	防災0.8
旅費謝金	190,476	1,090,000	899,524	国際30, 学校24, 防災10, 将来20, GP5, 余裕20
通信運搬費	0	20,000	20,000	余裕2
印刷費	0	330,000	330,000	防災(シンボ8, パンフレット25)
雑費	223,498	313,000	89,502	国際1.3, 学校2, 事業10, 余裕18
火山学の普及啓発に関する事業費 合計	413,974	1,761,000	1,347,026	余裕40
火山学に関する研究奨励表彰費				
その他印刷費	31,700	50,000	18,300	受賞者8名
奨励費	0	400,000	400,000	国際20x2
雑費	43,576	50,000	6,424	
火山学に関する研究奨励表彰費 合計	75,276	500,000	424,724	

## 2020年度予算(案)

ver.200512a

勘定科目名称	2019実績	2020予算	予算額差異	備考
助成金支出				
助成金支出	600,000	800,000	200,000	EPS, 地学五輪, サマスク, 余裕20
助成金支出 合計	600,000	800,000	200,000	余裕20
【期首・期末棚卸】				
売上原価	236,852	0	-236,852	
【期首・期末棚卸】 合計	236,852	0	-236,852	
事業費 計	6,559,604	14,961,000	8,401,396	余裕180
【管理費】				
給料手当	3,700,021	3,900,000	199,979	余裕20
法定福利費	626,089	640,000	13,911	社保
福利厚生費	7,030	10,000	2,970	健診
旅費交通費	258,355	810,000	551,645	通勤費21, 理事会旅費40, 余裕20
通信運搬費	322,188	470,000	147,812	+富士山送料10, 総会書面表決15
消耗品費	204,566	180,000	-24,566	
光熱水料費	85,481	120,000	34,519	光熱費増加傾向
賃借料	322,744	340,000	17,256	
租税公課	134,630	150,000	15,370	
支払手数料	748,495	800,000	51,505	会計事務所, 振込手数料
減価償却費	169,553	169,553	0	定額
徴収不能額	247,000	0	-247,000	
保険料	5,678	5,678	0	定額
雑費	334,728	860,000	525,272	HP改修20, 余裕20, など
管理費 計	7,166,558	8,455,231	1,288,673	余裕60
【経常支出】 合計	13,726,162	23,416,231	9,690,069	余裕240
当期経常増減額	-757,418	-8,941,931	-8,184,513	(将来計画30, 理事会旅費40, 国際40=110)
《その他資金の部》				
【その他資金収入の部】				
【その他資金収入の部】 合計	0	0	0	
【その他資金支出の部】				
【その他資金支出の部】 合計	0	0	0	
《正味財産増減の部》				
当期正味財産増減額	-757,418	-8,941,931	-8,184,513	
前期繰越正味財産額	33,549,650	32,792,232	-757,418	
次期繰越正味財産額	32,792,232	23,850,301	-8,941,931	前期繰越正味財産額+当期正味財産増減額
固定資産額	21,483,341	21,463,788	-19,553	前期額-減価償却+退職引当金支出(15万)
期末棚卸高	1,364,078	1,364,078	0	去年度実績
前払費用	19,873	14,195	-5,678	保険料未経過分
前期繰越収支差額	10,420,275	9,924,940	-495,335	
次期繰越収支差額	9,924,940	1,008,240	-8,916,700	次期繰越正味財産-固定資産-期末棚卸-前払費

## 2020年 特定非営利活動法人日本火山学会 理事選挙結果報告書

特定非営利活動法人日本火山学会 2020年理事選挙（定数 15）の立候補者は 2020年 2月 14日午後 5時の締切り時点で別表の 14名でした。選挙管理委員会で立候補届の内容を検討した結果、すべての立候補者は選挙規程及び細則の候補者資格を満たしていると認定しました。

立候補者数が定数以下であったため会員による投票は行わず、別表の立候補者 14名を理事選挙当選者とすることを提案します。

2020年 3月 2日

特定非営利活動法人日本火山学会 選挙管理委員長

風早 康平 

特定非営利活動法人日本火山学会長 篠原宏志 様

別表： 立候補者の氏名および所属（あいうえお順）

氏名	所属
青木 陽介	東京大学地震研究所
青山 裕	北海道大学大学院理学研究院 附属地震火山研究 観測センター
石峯 康浩	山梨県富士山科学研究所
市原 美恵	東京大学地震研究所
上田 英樹	国立研究開発法人防災科学技術研究所
大野 希一	島原半島ジオパーク協議会事務局
奥村 聡	東北大学大学院理学研究科地学専攻
下司 信夫	国立研究開発法人産業技術総合研究所
高木 朗充	気象庁地震火山部火山課
千葉 達朗	アジア航測株式会社 先端技術研究所
東宮 昭彦	国立研究開発法人産業技術総合研究所
中道 治久	京都大学防災研究所
西村 太志	東北大学大学院理学研究科
宮縁 育夫	熊本大学くまもと水循環・減災研究教育センター

## 特定非営利活動法人 日本火山学会（2020年5月19日）庶務報告

## 〈会員関係〉

## 1. 入退会希望（別紙）

2019年度秋季大会後・入会（承認済み） 個人：8名 団体：1件  
維持会員 1名，学術会員 4名，一般会員 3名，団体一般会員 1件

2019年度退会 個人：23名 団体：1件  
維持会員 3名，学術会員 19名，一般会員 1名，団体一般会員 1件

2019年度学生会員・期間満了退会 56名  
維持会員 0名，学術会員 56名，一般会員 0名

2020年度・除名対象 個人：16名  
維持会員 1名，学術会員 12名，一般会員 3名

## 2. 会員数

	維持会員	学術会員	一般会員	計
2019年秋季大会後（個人）	276	711	107	1096
2019年秋季大会後（団体）	2	0	19	21
名誉会員	10	0	0	10
2019年秋季大会後・合計	288	711	126	1127
2019年秋季大会後入会（個人）	1	4	3	8
2019年秋季大会後入会（団体）	0	0	1	1
2019年度・期間満了退会（個人・学生）	(0)	(56)	(0)	(56)
2019年度退会（個人）	3	19	1	23
2019年度退会（団体）	0	0	1	1
逝去	1	0	1	2
区分変更	+1	-1	0	0
<b>2020年度・除名前・合計</b>	<b>286</b>	<b>639</b>	<b>127</b>	<b>1052</b>
2020年度・除名	1	12	3	16
<b>2020年度・除名後</b>	<b>285</b>	<b>627</b>	<b>124</b>	<b>1036</b>

維持会員（個人）：一般 274名 学生 0名

学術会員：一般 588名 学生 50名

## 2. 2020年度・除名対象：16名（別紙）

※6月下旬に除名警告書を発送後，8月末日までに会費の支払や会員資格継続希望の連絡がないため除名。

## 3. 学生会員期間満了退会

学生会員継続申請未提出者 56名（内3名会費未納有り）（別紙）

※2020年3月末日までに学生会員登録カードの提出がないため退会。

但し，未納会費は継続して請求する。

(別紙)

●2019 年度秋季大会後・入会 (承認済み)

維持会員 1 名, 学術会員 4 名, 一般会員 3 名, 団体一般会員 1 件

・維持会員 1 名  
中村浩二

・学術会員 4 名 (内学生 1 名)  
地引泰人・廣瀬郁・三井雄太

(学生)

田端万索

・一般会員 3 名  
谷和信・三原翠・山岸千人

・団体一般会員 1 件  
鹿児島市危機管理局危機管理課

●2019 年度学生会員・期間滿了退会 : 56 名

・会費完納期間滿了退会学生 学術会員 53 名

秋葉祐里・朝倉由香子・足立勝美・猪狩彬寛・石川歩・植田尚大・種田凌也・大野鷹士  
大橋正俊・勝岡菜々子・金田泰明・川瀬遼太・川辺智士・木村育磨・久保武史・倉本天  
栗原亮・坂本房江・佐藤侑人・白木友貴・新庄研斗・杉村俊輔・鈴木真奈美・関口誠人  
高杉直彰・田野智大・仲井一穂・中島壮太郎・西村公宏・新田寛野・橋本匡・林裕馬  
平井康裕・平峰玲緒奈・藤原寛・普代貴大・不破智志・堀内拓朗・松木田悠希・松野千裕  
松本弥祿・丸石崇史・宮下太一郎・村上翔大・森亜津紗・諸石喜大・諸澤直香・山下陽子  
山本大貴・山本春香・吉田巧・MUKHALLAD FAIZ WILDAN・RAHAJENG ARDINNI NOOR

・2019 年度未納学生学術会員 : 3 名  
猪狩一晟・菊池瞭平・山河和也

●2019 年度・退会

維持会員 3 名, 学術会員 21 名, 一般会員 1 名, 団体一般会員 1 件

・維持会員 3 名  
小林秀敏・長谷川昭・村瀬勉

・学術会員 19 名 (内学生 2 名)  
青木重樹・池田滋・岩崎悦夫・加藤智之・木村誇・佐藤比呂志・下川浩一・照井一明  
中野司・西村進・葉室和親・藤田秀樹・三上直也・安原正也・山口照寛・山田彩織・吉田英

人

・会費完納・退会学生 学術会員 1 名  
香取慧

・2019 年度未納・学生学術会員 : 1 名 (退会希望)  
山下慧

- ・一般会員 1名  
永松允積

- ・団体一般会員 1件  
株式会社ミットヨ

●逝去：2名

- ・維持会員  
伊藤英之

- ・一般会員  
前田久紀

●2020年度・除名対象：16名

- ・維持会員 1名  
上杉孝彦

- ・学会会員 12名

浅田美穂・岡村裕子・金井啓通・佐藤俊一・佐藤智紀・高橋栄一・高橋忍・西祐司  
牧野雅彦・森田考美・矢島徹・吉田修二

- ・一般会員 3名

岩本孝一・佐伯佳美・西宮周一

## 2020 年秋季大会の開催方針について

大会委員会

標記につきまして、5月19日の理事会において議論の結果、下記のように進めることとなりました。

- ・秋季大会は学会の根幹をなす行事であり、安全対策を十分講じた上で、名古屋での10月現地開催を目指す。
- ・感染症の蔓延状況を注視し、状況に応じて、現地開催の中止、オンラインでの開催、延期等の変更の措置を講ずる。
- ・日程の都合上、予稿集の冊子体での期日までの発行は見合わせて pdf のみとする。

上記を踏まえ、具体的な日程としては、当面、秋季大会予稿受付を JpGU 開催後の 8-9 月頃の予定として準備を進めております。しかし、9月下旬頃までの段階で現地開催が難しいと判断された場合は、オンライン開催を検討し、さらに必要に応じて投稿受付を 1 ヶ月ほど延長するとともに（10月まで）、開催日程を 11 月頃に先送りする可能性があります。なお、状況により、上記と異なる対応をせざるを得ないこともあり得ますが、その都度、メーリングリスト等で周知に努めます。

最新情報は随時学会ホームページおよび秋季大会ホームページにおいて掲載してまいりますので、そちらをご覧ください。皆様のご健康をお祈りするとともに、学会運営につきまして、ご理解ご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

# 夢ロードマップの作成について

資料7

学術将来検討小委員会

西村太志（委員長）、下司信夫、石峯康浩、奥村聡

火山学会では、10年から30年程度の中長期的な将来展望と重要研究課題を、火山学分野の夢ロードマップとして取りまとめるために、2018年の冬に将来検討委員会のもとに「学術将来検討小委員会」が設置されました。60周年記念事業における火山学各分野における研究動向と展望の取りまとめを踏まえながら、今後学会が行うべき具体的施策を提案することを目的としています。また、学術会議における地球惑星科学分野の夢ロードマップや大型研究マスタープランなどに火山学分野の重要研究課題を反映させることも目的としております。

夢ロードマップの作成に当たっては、「火山」60周年記念特集号の著者および火山学会60周年記念事業ワーキンググループメンバーの方々にアンケートを実施しました。さらに理事の意見も取り入れながら、学術会議における地球惑星科学分野の夢ロードマップと同じ形式で案を作成しました。この案について2019年の秋季大会のあとに、会員の皆様からご意見をいただきました。今回、その意見をもとに修正した完成版を報告します。

P3-4 最終版

P6-7 2019年の案からの修正箇所を色付き文字で表示

夢ロードマップ最終版

## マグマ生成・火山噴火機構

岩石学・地質学・地球物理学  
地球化学・高圧科学

- ・火山の誕生・進化プロセスの全貌理解（海陸火山構造探査、海底火山調査）
- ・火道・浅部熱水系探査（マグマだまり探査、浅部熱水流動、浅部構造モデル）
- ・マグマ溜まり・噴火過程解明  
（マグマだまり分布、マグマ挙動モデル、噴出物リアルタイム分析  
UAV噴出物採取、噴煙観測、水蒸気爆発機構）

## 火山活動の観測

地球物理学・地球化学・  
岩石学・地質学

- ・火山活動自動評価・予測システム  
（AI,データ同化）
- ・火山灰降灰・土石流・溶岩流・火砕流予測
- ・火山探査ロボ・新技術による観測
- ・噴火事象系統樹の整備
- ・リアルタイム・ハザードマップ

- ・避難シミュレーション
- ・火山防災リテラシー普及
- ・レジリエントな社会構築
- ・耐噴火建築物の開発

社会・減災・防災  
災害科学・社会科学

## マグマ供給系全容の理解 火山活動の予測と災害軽減 火山による自然環境変動の理解

- ・火山灰編年学
- ・火山噴火と人類史
- ・火山灰土壌
- ・噴火と植生の相互作用
- ・地熱・温泉開発
- ・ジオパーク

## 地球・惑星の形成・進化

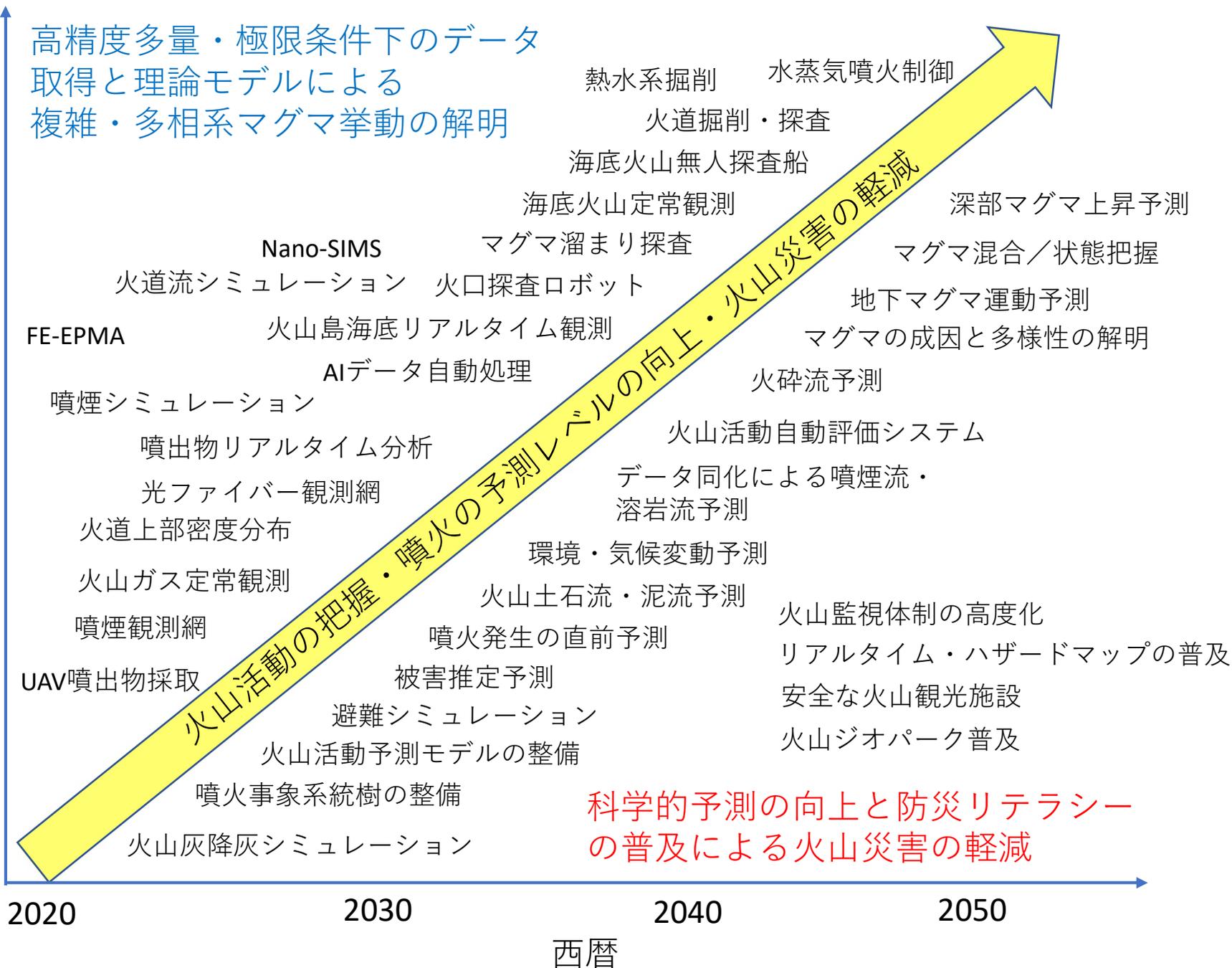
岩石学・地球物理学・高  
圧科学・惑星科学

- ・大気・海洋圏と火山噴火の相互作用
- ・気候変動と火山噴火
- ・地表環境形成プロセス
- ・生命の誕生と進化に対する火山活動の  
役割解明
- ・惑星探査・他天体の火成活動理解

## 火山による環境形成・ ハビタビリティ

環境科学・惑星科学・  
生命科学

観測・分析技術の向上と火山現象のモデル化



2019年11月の案からの修正箇所  
(色付きの文字が加筆修正箇所)

## マグマ生成・火山噴火機構

岩石学・地質学・地球物理学  
地球化学・高圧科学

- ・火山の誕生・進化プロセスの全貌理解（海陸火山構造**探査**、海底火山**調査**）
- ・火道・浅部熱水系探査（マグマだまり探査、浅部熱水流動、浅部構造モデル）
- ・マグマ溜まり・噴火過程解明  
（マグマだまり分布、マグマ挙動モデル、噴出物リアルタイム分析  
UAV噴出物採取、噴煙観測、水蒸気爆発機構）

## 火山活動の観測

地球物理学・地球化学・  
岩石学・地質学

- ・火山活動自動評価・予測システム  
（AI,データ同化）
- ・火山灰降灰・土石流・溶岩流・火砕流予測
- ・火山探査ロボ・新技術による観測
- ・噴火事象系統樹の整備
- ・リアルタイム・ハザードマップ

- ・避難シミュレーション
- ・火山防災リテラシー普及
- ・**レジリエント**な社会構築
- ・耐噴火建築物の開発

**社会・減災・防災**  
災害科学・社会科学

## マグマ供給系全容の理解 火山活動の予測と災害軽減 火山による**自然環境変動**の理解

- ・火山灰編年学
- ・火山噴火と人類史
- ・火山灰土壌
- ・噴火と植生の相互作用
- ・地熱・温泉開発
- ・ジオパーク

## 地球・惑星の形成・進化

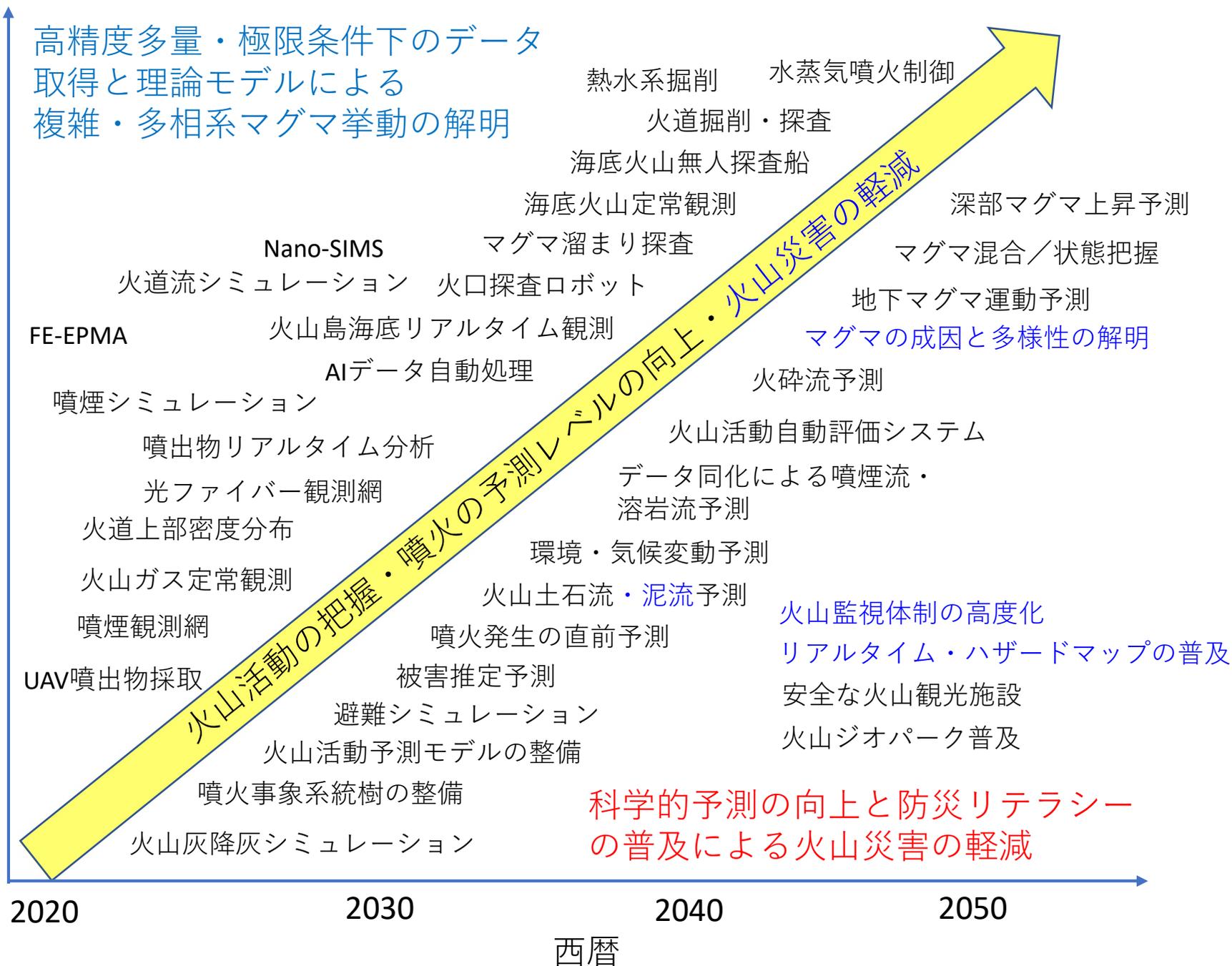
岩石学・地球物理学・高  
圧科学・惑星科学

- ・大気・海洋圏と火山噴火の相互作用
- ・気候変動と火山噴火
- ・地表環境形成プロセス
- ・生命の**誕生**と進化に対する火山活動の  
役割解明
- ・惑星探査・他天体の火成活動理解

## 火山による環境形成・ ハビタビリティ

環境科学・惑星科学・  
生命科学

観測・分析技術の向上と火山現象のモデル化



2020 年度 日本火山学会各賞選考結果について

2020 年 5 月 19 日

各賞選考委員会から提案された日本火山学会各賞の受賞候補者について、5 月 19 日に開催した 2020 年度第 3 回理事会において以下の通り承認した。

■日本火山学会賞

- 中川 光弘（北海道大学 大学院理学研究院 自然史科学部門 地球惑星システム科学分野）  
「日本及び近隣地域の火山地質学・火山岩岩石学研究の発展と人材育成への貢献」

■普及啓発賞

- 公益財団法人 阿蘇火山博物館（代表者：池辺伸一郎）  
「活動的火山における火山博物館運営の先駆的活動と、ジオパーク活動等を通じた火山学の多面的な普及啓発活動の実践」

■優秀学術賞 応募無し

■奨励賞 応募無し

■学生論文賞

- 大橋正俊（東京大学地震研究所）

非定常気泡変形モデルの開発とその火山学的応用

「Ohashi, M., M. Ichihara, A. Toramaru (2018) Bubble deformation in magma under transient flow conditions, *Journal of Volcanology and Geothermal Research*, 364, 59-75, doi:10.1016/j.jvolgeores.2018.09.005.」

- 西脇瑞紀（九州大学 理学府 地球惑星科学専攻 固体地球惑星科学講座 岩石循環科学分野）

マグマの発泡現象、特に気泡核形成段階において粘性が及ぼす効果の理論的考察

「 Mizuki Nishiwaki and Atsushi Toramaru (2019) Inclusion of viscosity into classical homogeneous nucleation theory for water bubbles in silicate melts: reexamination of bubble number density in ascending magmas, *Journal of Geophysical Research: Solid Earth*, 124, 8, 8250-8266.」

■論文賞

- 井口正人・為栗 健・平林順一・中道治久(2019)マグマ貫入速度による桜島火山における

噴火事象分岐論理,火山,64,2,33-52

●橋本武志・宇津木充・大倉敬宏・神田 径・寺田暁彦・三浦 哲・井口正人(2019)非マグマ性の火山活動に伴う消磁及び地盤変動のソースの特徴,火山,64,2,103-120

今後、10月に開催予定の秋季大会時に、臨時総会を開催し各賞について総会承認を得るとともに、授賞式・記念講演を実施する予定。

以上